子どもと自然・遊びに関わる学会調査プロジェクト推進委員会報告

推進委員：諫山邦子　石渡正志　植田一夫　大森享　岡健吾　任海正衛
中谷治代　野村治　山崎宣次　横山誠　吉岡秀樹

キーワード　子どもの遊び　子どもの自然体験　子どもの生活
地域の自然環境　保護者の意識

現在、子どもの自然接触体験と遊びをめぐり、その質と量が子どもの成長・発達に関わる問題として様々指摘されています。「子どもと自然」の研究団体である本学会で、子どもと自然のかかわりとその媒介項の重要な一つである遊びに関する全国調査（アンケート調査）をすすめるために、「子どもと自然・遊びに関わる学会調査プロジェクト推進委員会」を立ち上げ、今現在 11 回の検討を進めてきました。
一般口頭発表では推進委員会で検討してきた遊び仲間、遊び時間、遊び環境、野生小動物や自然との関わり、地域の保護者らの意識　等に関わるアンケート項目について報告します。

さて、日本の子ども達が置かれている社会的環境について、国連子どもの権利委員会は「日本政府第 4，5 回統合報告書に関する最終所見」2019.3.5 で、日本政府に対し「H、教育、余暇、および文化的活動（第 28 条から第 31 条）職業訓練とガイダンスを含む教育　39（ｂ）」「あまりにも競争的な制度を含むストレスフルな学校環境から子どもを開放することを目的とする措置を強化すること。」や「休息、余暇、リクリエーション活動および文化的,芸術的活動 41」「十分かつ持続的な資質を伴った遊びと余暇に関する政策を策定、実施すること、および、余暇と自由な遊びに十分な時間を割り振ることを含め、休息と余暇に関する子どもの権利、および、子どもの年齢にふさわしい遊びとリクリエーション活動を行う子どもの権利を保障するための努力を強化することを締約国に勧告する。」としている。

子ども達は「学校での過度な競争」と「社会全体のストレスフル」に晒され、子ども期の発達の権利である休息、余暇、遊び等が保障されてはいない。また地域で関われる野生小動物や自然的環境が失われ、それらに関わる「遊び文化・遊び仲間」も途絶えている。

子ども達の置かれている社会的環境を憂い、例えば 1960 年代末、九州福岡から始まった子どもらに良い文化を！とする「子ども劇場・親子劇場」運動は、全国に広がっていたように、現在、地域で子どもたちの遊び・自然体験を耕す「地域子育て文化運動」ともいうべき運動はどうであろう。
現在日本社会の子どもと自然・遊びをめぐる実態調査を行う所以でもある。